

2011-4-21

2427

JASDAQ

株式会社アウトソーシング

2010年12月期決算説明会・フォローアップ取材メモ

2月15日に開催された株式会社アウトソーシング(以下、OSI、または当社)の2010年12月期(=2010年度)決算説明会、ならびにその後のフォローアップ取材のサマリをご案内いたします。

2010年12月期 連結決算概要

2010年度は、【表1】にある通り、売上高、利益ともに前期を大きく上回った。同業他社が営業拠点を縮小する一方、OSIは拡大戦略を積極的に展開した結果、売上高はリーマンショック以前のピークを上回った。営業利益は、業容拡大に伴う費用増(8,599百万円)、更なる売上拡大に向けての先行投資—外勤社員の採用や新規営業強化のための組織作りに係る費用(500百万円)を吸収して大きく改善、営業利益以下の各利益は過去最高を達成した。特に年末商戦の駆け込み需要があった第4四半期は、営業利益率が前期の2.9%から6.6%と拡大したが、この間も、次期の事業拡大に向け、先行投資の手を緩めていない。

【表1】2010年12月期 連結業績サマリ

(百万円)	FY12/09 (実績)		FY12/10 (実績)		
	通期	構成比	通期	構成比	前期比 増減率
売上高	17,964	100.0%	28,386	100.0%	58.0%
売上総利益	3,386	18.8%	6,007	21.2%	77.4%
販管費	3,536	19.7%	4,834	17.0%	36.7%
営業利益	-150	-0.8%	1,173	4.1%	n.a.
経常利益	22	0.1%	1,401	4.9%	6229.1%
純利益	-215	-1.2%	760	2.7%	n.a.

※ 各表は、(株)アウトソーシングによる開示データをもとに、(株)トリアスにて作成。

【表2】2010年12月期 第4四半期 連結業績サマリ

(百万円)	FY12/09 (実績)		FY12/10 (実績)		
	Q4(10-12月)	構成比	Q4(10-12月)	構成比	変化率
売上高	5,832	100.0%	8,137	100.0%	39.5%
売上総利益	1,332	22.8%	1,848	22.7%	38.7%
販管費	1,159	19.9%	1,309	16.1%	12.9%
営業利益	172	2.9%	539	6.6%	213.4%
経常利益	238	4.1%	578	7.1%	142.9%
純利益	143	2.5%	385	4.7%	169.2%

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

セグメント別では、主に電気機器、輸送用機器関連が牽引した主力の生産アウトソーシング事業の売上高が大きく伸長した。また、管理業務アウトソーシング事業についても、順調に拡大した。

【表3】連結セグメント 取引先業種別売上高の内訳

(百万円)	FY12/09 (実績)	FY12/10 (実績)	前期比	
			増減額	増減率
生産アウトソーシング事業	17,200	27,016	9,816	57.1%
電気機器関係	4,742	8,527	3,785	79.8%
食品関係	3,437	2,032	-1,405	-40.9%
輸送用機器関係	2,810	7,394	4,584	163.1%
化学・薬品関係	3,669	4,107	438	11.9%
金属関係	332	270	-62	-18.7%
その他	2,208	4,684	2,476	112.1%
管理業務アウトソーシング事業	184	735	551	299.8%
介護事業	347	471	124	35.8%
その他の事業	232	162	-70	-30.2%
合計	17,964	28,386	10,422	58.0%

アウトソーシングのグループ戦略

昨年12月27日、OSIは代表者異動のリリースを行った。同社代表取締役社長の丸岡陽太氏が辞任し、創業者の土井春彦氏が代表権のある会長と社長を兼任することになった。丸岡氏は、2008年3月に吸収合併した旧株式会社フリーワーク(以下、旧FW)の社長であったが、旧FWとOSIとの経営統合が完了したとの判断から、丸岡氏の希望により、今回の人事異動がなされたとのことだ。それまで西日本に弱かったOSIグループだったが、関西基盤の旧FWとの合併により、(株)ジーエス・ユアサコーポレーション、パナソニック(株)、エスペック(株)、(株)ブルーエネジーといった新たな顧客が加わり、合併は相応の成果をもたらした。新たな経営体制のもと、会長、社長を兼務する土井氏が引き続き経営最高責任者(CEO)として戦略的な社外交渉等、業容拡大に向けての取組みをスピードをもって実行していくことになる。

リーマンショック以降、生産アウトソーシング業界には大きな地殻変動が起こった。その背景には、顧客であるメーカーの、生産アウトソーシングに対するニーズの大きな変化がある。中国を含むアジアメーカーの台頭で、大量生産の拠点は海外にシフトした。一方で、国内生産の競争力維持には、研究開発能力を強化しつつ、さらなるコスト削減を行うといった、高度な生産性改善ニーズが顕在化した。

生産アウトソーシング市場では、従来古参企業とOSIを含む新参企業との企業規模に大きな開きがあった。ところが、リーマンショックを経た現在、二つのグループの規模にさほど差がなくなっている。リーマンショック以前は、古参企業による事業規模拡大、すなわち量的拡大戦略が競争優位性となっていたが、現在は、コンプライアンス力(法遵守の能力)や請負力といった、質的強化が競争優位性となってきており、結果、新参企業の競争力が強まっている。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

そのような環境下、OSIは、2013年度までに生産アウトソーシング企業の国内トップを目指し、二つの方向で積極投資を行っている。当面は国内中心の展開になるが、2020年度の海外売上比率50%達成という目標に向けて、中期的には海外への投資を強化していく計画だ。

- ① 量的拡大のための投資：国内の生産回復時にシェアを拡大できるよう、営業基盤を強化するとともに、海外市場の拡大に対応するための基盤構築投資を強化；
- ② 質的向上のための投資：生産性向上のための新たなソリューション開発に向けてM&Aを強化するとともに、市場でのポジショニング強化のためのブランディング投資、営業体制の効率化投資を拡大。

2011年12月期 連結業績予想

2011年度の業績予想は【表4】にあるとおりだが、この予想には、現在注力中の業種別グループ戦略の強化が織り込まれている。特に、過去数年間に行ったM&Aを通じ強化した事業領域を担う輸送機器グループ、電気・電子グループについて、前期にグループ再編に係る施策を推進したため、今期は刈り取り期に入ってくる。

【表4】 2011年12月期 連結業績予想


(百万円)	FY12/10 (実績)		FY12/11 (予想)					
	通期	構成比	上期	下期	通期	構成比	増減額	前期比増減率
売上高	28,386	100.0%	16,850	23,150	40,000	100.0%	11,614	40.9%
生産OS事業	27,016	--	16,359	22,593	38,952	--	11,936	44.2%
管理業務OS事業	735	--	741	863	1,604	--	869	118.2%
その他	634	--	67	86	153	--	-481	-75.9%
内部消去	-313	--	-317	-392	-709	--	-396	126.5%
売上総利益	6,007	21.2%	--	--	--	--	--	--
販管費	4,834	17.0%	--	--	--	--	--	--
営業利益	1,173	4.1%	600	1,200	1,800	4.5%	627	53.5%
生産OS事業	912	--	457	1,106	1,563	--	651	71.4%
管理業務OS事業	273	--	216	160	376	--	103	37.7%
その他	87	--	3	10	13	--	-74	-85.1%
消去又は全社	-100	--	-76	-76	-152	--	-52	52.0%
経常利益	1,401	4.9%	650	1,250	1,900	4.8%	499	35.6%
純利益	760	2.7%	350	790	1,140	2.9%	380	50.0%

※その他セグメントのFY12/10実績には、同期に売却したわらべうた、ミストラルサービスの収益を含む。

輸送機器グループでは、子会社の(株)アウトソーシングセントラルと(株)ニッソーサービスを中心に、積極的な拠点開設により営業体制を強化し、新規顧客開拓を行う。また、実験・評価をほぼ内生できる体制が構築できたため、研究開発から実験工程に至る一括受託を推進する。これに加え、直接雇用が中心の量産工程については、子会社ORJを通じた管理業務アウトソーシングサービスを展開し、研究開発から量産工程に至る包括的な一括受託案件に挑戦、既存顧客の深堀を目指す。海外については、成長市場である中国、インドネシア、インド、タイなどへの進出に向けた準備に着手する。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

電気・電子グループについては、半導体、エネルギー、画像、通信を研究・開発領域の重点 4 大事業分野と位置づけ、技術力の蓄積を図る。エネルギー分野については、社内資源が不足しているため、戦略的 M&A による経営資源の獲得を目指す。事業展開については、技術者の育成や高度な技術者の供給という点で聖翔(株)、半導体装置の保全・修理業務というニッチ領域における高付加価値案件を担う OS セミテック(株)が中核子会社となる。加えて、輸送機器グループ同様、ORJ がメーカー期間社員の管理業務アウトソーシングサービスを展開するが、当グループにおいては、当該期間社員が行う生産工程につき、中期的には請負化することを目指す。

なお、2011 年度の先行投資費用は、国内関連で 784 百万円、海外関連で 530 百万円の合計 1,314 百万円を予定している。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

ご参考

● 連結主要指標と業績の推移

連結主要データ			連結主要データ		
発行済み株式数(株)	10.12月	15,547,000	総資産(百万円)	10.12月	10,707
うち自己株式数(株)	10.12月	1,139,500	自己資本(百万円)	10.12月	3,326
時価総額(百万円)	11.4.21	5,535	有利子負債(百万円)	10.12月	2,670
一株当純資産(円)	10.12月	230.9	自己資本比率(%)	11.12月予	31.1
ROE(%)	10.12月	22.9	有利子負債比率(%)	10.12月	80.3
ROA(%)	10.12月	7.1	フリーキャッシュフロー(百万円)	10.12月	1,201
PER(倍)	11.12月予	4.5	注: ROE=当期純利益÷期末自己資本		
PCFR(倍)	10.12月	5.4	ROA=当期純利益÷期末総資産平均		
PBR(倍)	10.12月	1.5	PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)		
株価(円)	11.4.21	356	日々平均出来高=過去1年間の平均		
単元株数(株)	10.12月	1	有利子負債比率=有利子負債÷自己資本		
日々平均出来高(株)	11.4.21	61,015	フリーキャッシュフロー(FCF)=営業CF+投資C		

連結 (百万円)	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株益(円)	1株配(円)
2007年12月期	24,321	1,013	1,004	583	4,917	492.00
2008年12月期	24,148	1,113	1,134	641	5,412	644.00
2009年12月期	17,964	-150	22	-215	-1,511	644.00
2010年12月期	28,386	1,173	1,401	760	52	7.21
予2011年12月期上期	16,850	600	650	350	24	--
予2011年12月期	40,000	1,800	1,900	1,140	79	8.00

注: 2011年12月期予想は、2011年2月15日発表の会社予想

● 株価チャートとRSI



出所: BloombergのデータをもとにTrias作成

注: RSI(Relative Strength Index)とは株価の「買われ過ぎ」や「売られ過ぎ」を指数で表したもので、一般的にRSIが70を超えると高値圏、30以下では安値圏に位置しているといわれている
 $RSI = \frac{N日間の値上がり幅平均}{(N日間の値上がり幅平均 + N日間の値下がり幅平均)} \times 100$

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。投資に際しての最終決定は投資家の皆さまご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。